

科目名	建築設計製図Ⅱ					
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWINGⅡ					
単位数	6単位		時間数	90時間	担当者 古賀 俊光	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	実務家教員 担当科目 設計事務所にて建築デザインに従事	
対象学科・学年	建築工学科 1年					
授業概要	【鉄筋コンクリート・鉄骨造の製図】配置図の描き方 平面図の描き方 断面図・立面図の描き方 矩計図の描き方 1階床伏図・2階床伏図・1階小屋伏図の描き方 【住宅のフリープラン】各自で条件にあったフリープランを作成する					
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技: ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
		○				製図道具の使い方を理解し、使用することが出来るようになる
	○					木造建築の一般図の種類と表現方法・内容が説明できる。
		○				製図の基本に則して木造建築物の配置図及び平面図を作図することができる。
		○				製図の基本に則して木造建築物の断面図及び立面図を作図することができる。
		○				製図の基本に則して木造建築物の矩計図を作図することができる。
テキスト・教材 参考図書	彰国社 定番建築製図入門					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	鉄筋コンクリート住宅のトレース① 説明・平面図作図				自分なりに完成までのスケジュールを組み立て、遅れている行程については授業外で作業を進めていくこと
	2	鉄筋コンクリート住宅のトレース① 平面図作図				
	3	鉄筋コンクリート住宅のトレース① 平面図作図				
	4	鉄筋コンクリート住宅のトレース② 断面図				
	5	鉄筋コンクリート住宅のトレース② 断面図				
	6	鉄筋コンクリート住宅のトレース② 断面図				
	7	鉄筋コンクリート住宅のトレース③ 立面図				
	8	鉄筋コンクリート住宅のトレース③ 立面図				
	9	鉄筋コンクリート住宅のトレース③ 立面図				
	10	鉄筋コンクリート住宅のトレース④ 仕上げ、手直し				
	11	鉄筋コンクリート住宅のトレース④ 仕上げ、手直し				
	12	鉄筋コンクリート住宅のトレース④ 仕上げ、手直し				
	13	【木造】住宅フリープラン課題説明				
	14	図面製作① 敷地の読み取り方				
	15	図面製作① コンセプトの設定				
	16	図面製作① コンセプトの設定				
	17	図面製作② エスキス				
	18	図面製作② エスキス				
	19	図面製作② エスキス				
	20	図面製作③ エスキスチェック				
	21	図面製作③ エスキスチェック				
	22	図面製作③ エスキスチェック 手直し				
	23	図面製作③ 手直し				
	24	【木造】住宅課題作品 提出				

	25	【RC造】住宅プラン 課題説明					
	26	図面制作 コンセプトの設定					
	27	図面制作 コンセプトの設定					
	28	図面制作 エスキス					
	29	図面制作 エスキス					
	30	図面制作 エスキス					
	31	図面制作 エスキスチェック					
	32	図面制作 エスキスチェック					
	33	図面制作 手直し					
	34	図面制作 手直し					
	35	図面制作 手直し					
	36	図面制作 チェック					
	37	図面制作 チェック					
	38	図面制作 チェック					
	39	図面制作 仕上げ					
	40	図面制作 仕上げ					
	41	図面制作 仕上げ					
	42	図面制作 仕上げ					
	43	課題作品発表準備					
	44	作品発表 講評					
	45	講評					
評価方法	(1)課題作品 (2)課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作品		○	○			50%
	作品発表		○				50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築計画Ⅱ							
科目名(英)	Architectural planning and designⅡ							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	森行 美枝	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務担当	
対象学科・学年	建築工学科 1年							
授業概要	主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等を実施。							
授業形式	講義：○		演習：△		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				幼稚園(保育所) 関する 歴史 変遷について説明が出来る。		
	○	○				学校建築に関する 歴史 変遷について説明が出来る。		
	○	○				外部空間に関する 歴史 変遷について説明が出来る。		
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	3－1幼稚園(保育所) 幼稚園の変遷,幼稚園の計画1						
	2	3－1幼稚園(保育所) 幼稚園の変遷,幼稚園の計画2 /西洋・日本建築史Ⅰ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	3－1幼稚園(保育所) 各室計画／西洋・日本建築史Ⅱ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	レポート課題①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	3－2小学校・中学校 小学校・中学校の変遷／西洋・日本建築史Ⅲ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	3－2小学校・中学校 学校の計画,校舎の計画／西洋・日本建築史Ⅳ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	3－2小学校・中学校 新しい教育形態への対応／西洋・日本建築史Ⅴ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	レポート課題②					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	7－1外部空間の把握 建築物と外部空間、外部空間の認識方法／西洋・日本建築史Ⅵ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	7－2外部空間の把握 外部空間のスケール／西洋・日本建築史Ⅶ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	レポート課題③					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	7－2外部空間の計画手法 都市の通過空間・都市の広場／西洋・日本建築史Ⅷ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	7－2外部空間の計画手法 住宅地の外部空間／西洋・日本建築史 総括					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	後期授業総括(1～13回)、レポート課題発表①②					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	レポート課題③発表					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること (2)小テスト (3)宿題・レポート提出 提出状況 など次の規準で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	◎				80%	
	小テスト	○	◎				10%	
	宿題・レポート	○	◎				10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	建築構造力学Ⅰ									
科目名(英)	Building Structural Mechanics									
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		古賀 俊光	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		設計事務所にて建築デザインに従事	
対象学科・学年	建築工学科 1年									
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要となります。また、天災による建物への被害が起きており、多くの人が建物の構造強度についての関心も強くなっている。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識は重要となります。この授業では、構造力学の基本となる力の考え方を身につける。									
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				力の合成と分解および合力を計算することができる。				
	○	○				モーメントを計算することができる。				
	○	○				力およびモーメントのつり合い式を立てることができる。				
	○	○				構造物の反力を計算することができる。				
	○	○				構造物の応力図を書くことができる。				
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学 出版年 2017年									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	基礎数学テスト								
	2	力の合成					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	力の分解					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	力のモーメント					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	確認テスト(1)、荷重・力学モデル					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	6	力のつり合い					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	7	単純梁の反力計算(1)基本					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	単純梁の反力計算(2)応用					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	9	片持ち梁、張り出し梁の反力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	単純ラーメンの反力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	11	確認テスト(2)反力					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	12	単純梁の応力の基礎知識解説					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	単純梁の応力(1)基礎					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	単純梁の応力(2)応用					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	15	確認テスト(3)総合問題					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)提出物・出席・授業態度以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○	◎				80%			
	小テスト	○	◎				20%			
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	建築一般構造Ⅱ										
科目名(英)	ntroduction of Building ConstructionⅡ										
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	古賀 俊光			
実施年度	2022年度			実施時期	後期		担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事			
対象学科・学年	建築工学科 1年										
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。										
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				RC構造の特徴について説明することが出来る。					
	○	○				RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)について説明することが出来る。					
		○				断面算定をすることが出来る。					
	○	○				鉄骨構造の概要について説明することが出来る。					
	○	○				トラス構造について説明することが出来る。					
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築構造 市ヶ谷出版										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	鉄筋コンクリート構造(以下RC構造)とは									
	2	RC構造の特徴					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	3	RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	4	梁・柱部材					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	5	構造におけるひび割れ、スラブ・耐震壁					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	6	断面算定					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	7	その他のコンクリート系構造(壁式構造)(SRC構造)(プレストレストコンクリート構造)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	8	各部構造(陸屋根、床、階段、壁、天井、開口部)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	9	鉄骨構造の概要					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	10	鋼材の種類と性質					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	11	各部材の設計					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	12	接合(高力ボルト接合)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	13	接合(溶接接合)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	14	柱脚、トラス構造					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	15	構造Ⅱの総まとめ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験	○		◎							40%
	小テスト	◎		◎							40%
	宿題・レポート	○		◎							20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。										

科目名	建築施工Ⅰ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	集路 正巳
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	建築施工の位置づけと建築生産の基本理念を理解する。 建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を理解する。						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標(到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目 標	
	○	○				建築生産の仕組みを理解し、説明できる	
	○	○				請負契約から工事計画、工事管理まで理解し、説明出来る	
	○	○				建築工事を構成する様々な工種を理解し、概要を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)	
テキスト・教材参考図書	初学者の建築講座 建築施工(第三版) 市ヶ谷出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	建築生産の基本概念と着工までのあらし建築生産(設計と施工)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	施工者を選定し、工事請負契約をむすぶ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	工事に着工する(着工)①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	工事に着工する(着工)②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	仮設・準備工事①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	仮設・準備工事③				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	土工事・地業工事・基礎工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	小テスト①／鉄筋コンクリート工事概説				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	9	鉄筋工事①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	鉄筋工事②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	型枠工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	コンクリート工事①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	コンクリート工事②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	コンクリート工事③				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	確認テスト②／まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2) 小テスト(筆記)を2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト	○	◎				30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築法規Ⅱ											
科目名(英)												
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		徳田 美穂子		
実施年度	2022年度			実施時期		後期		担当者実務経験		設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事		
対象学科・学年	建築工学科 1年											
授業概要	建築物の設計、施工に必要な不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る											
授業形式	講義: ○			演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				建築に関する用語の定義を始めとする基本事項を説明することができる。						
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。						
	○	○				建築法規に規定する事項を学び、順守すべき事項を説明することができる。						
	○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。						
テキスト・教材 参考図書	・建築関係法令集 法令編											
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示				
	1	階段、廊下の幅						事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	2	階段、廊下の幅②						次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	3	確認申請などの手続き1						次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	4	確認申請などの手続き2						次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	5	構造と規模についての規定						次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	6	用途地域1						次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	7	用途地域2						次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	8	道路概要						次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	9	敷地と道路の関係						次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	10	建ぺい率1						次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	11	建ぺい率2						次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	12	容積率1						次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	13	容積率2(緩和)						次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
	14	容積率3(緩和)						次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。				
15	確認問題 (筆記試験)						定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で小テストを実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		◎								80%
	小テスト	○		◎								20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	トータルコミュニケーションⅡ						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	15時間	担当者	各クラス担任	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	Ⅰの授業を基に、講生同士で実際にコミュニケーションを行い、これらの体験的な習得を目指す。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				自分の意見や考えを他者に適切に伝える方法を説明できる。	
	○	○				他者の意見や考えを適切に聞く方法を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書は指定しない。参考図書はそのつど指示をする。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コミュニケーションが困難な状況				講義内で書いてもらうノートや配付するプリントに基づいて、毎回の授業内容の復習をすること。講義内でミニ・レポートなどの課題を出すこともある。	
	2	自己開示 自己呈示 演習					
	3	説得 依頼 演習					
	4	ミスコミュニケーション 演習					
	5	コミュニケーションにおいて相手を理解すること					
	6	コミュニケーションにおける言葉の使い方					
	7	敬語利用のケーススタディ					
	8	まとめ					
評価方法	(1受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				70%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	ビジネスマナーⅡ						
科目名(英)	Business manner						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	津嘉山 佳子
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	専門学校にて、ビジネスマナー教員として勤務
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	ビジネスシーンで、良い人間関係を築くための意思伝達スキルを学び、職場や社外でそれぞれの人間関係に応じた話し方、聞き方を身に付けることが仕事の成果につながります。また、来客応対、電話応対、冠婚葬祭など業務に必要なマナーや知識、技能を習得し、社会人としてのたしなみ、幅広いビジネスシーンに対応できる振る舞い方を身に付けます。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
					○	サービス接遇検定3	
	○	○				社会人としての言葉遣いを理解し、話すことができる。	
		○				ビジネス文書について理解し、作成することができる。	
		○				封筒の書き方・郵便の知識・冠婚葬祭について習得する	
				○		基本的なビジネスマナーを身に付け、振る舞うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・公益財団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト 2・3級 ・早稲田教育出版 サービス接遇検定3級 実問題集第39回～43回						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	検定試験について 受験級の選択・検定結果について					
	2	サービス接遇検定対策① 演習および解説 第39回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	3	サービス接遇検定対策② 演習および解説 第40回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	4	サービス接遇検定対策③ 演習および解説 第41回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	5	サービス接遇検定対策④ 演習および解説 第42回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	6	サービス接遇検定対策⑤ 模擬試験				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	7	サービス接遇検定対策⑥ 演習および解説 第43回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	8	サービス接遇検定対策⑦ 演習および解説				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	9	来客応対1 接遇の意義と重要性を理解する 接遇の心構え				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	来客応対2 来客応対の流れ 来客応対の基本用語				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	来客応対3 名刺の受け方・渡し方・取扱い				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	来客応対4 ロールプレイング テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	電話応対1 電話の特性 電話話法のポイント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	電話応対2 電話のかけ方・受け方 演習プリント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	学習のまとめ ― 今期学んだことの復習、理解を深める				定期試験に備えて、復習をしておくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				75%
	ロールプレイングテスト	○	○				15%
	態度・意欲				○	○	10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	CAD演習Ⅱ						
科目名(英)	jwcad exercise						
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	吉田 麻美
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	建築CAD検定2級合格を目指す。試験は自らの持つ建築知識をもとに、CADシステムを使って建築図面を作成する実力を備えているかを問う内容。実技試験で、5時間内に平面図と立面図の2面を作成する。						
授業形式	講義:		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				検定の内容を理解して1/50の平面図の作成が出来る	
	○	○				検定の問題各図面を読み解き1/50の南立面図の作成が出来る	
	○	○				各図面より屋根形状を読み取ることが出来る	
	○	○	○			コマンドを駆使して正確かつ迅速な作図が出来る	
					○	建築CAD検定2級に合格することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	建築CAD検定過去問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1,2	・建築CAD検定2級の試験概要の説明 ・第1課題 平面図作図					
	3,4	・第1課題 平面図作図				前回の復習をすること	
	5,6	・第1課題 平面図作図				前回の復習をすること	
	7,8	・第1課題 立面図作図				前回の復習をすること	
	9,10	・第1課題 立面図作図				前回の復習をすること	
	11,12	・第1課題 立面図作図 印刷して提出				前回の復習をすること	
	13,14	・第1課題 チェックバック ・第2課題平面図作図				前回の復習をすること	
	15,16	・第2課題平面図作図				前回の復習をすること	
	17,18	・第2課題立面図作図				前回の復習をすること	
	19,20	・第2課題立面図作図				前回の復習をすること	
	21,22	・第2課題立面図作図 印刷して提出				前回の復習をすること	
	23,24	・第2課題 チェックバック ・第3課題平面図作図				前回の復習をすること	
	25,26	・第3課題平面図作図				前回の復習をすること	
	27,28	・第3課題立面図作図				前回の復習をすること	
	29,30	・第3課題立面図作図				前回の復習をすること	
評価方法	(1)3課題の提出を行う。(2)検定の可否(3)提出物のクオリティ 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○	○			30%
	検定の可否		○	○		○	15%
	課題のクオリティ	○	○	○			55%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築図学Ⅱ						
科目名(英)	ARCHITECTURAL PERSPECTIVE Ⅱ						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	山内 由美	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	建築においてパースは建物の完成予想図を言うが、むしろ設計途中のイメージパースが重要である。オーナーの希望を具体化し 絵 として表現する事により、より解りやすく表現する方法です。 建築における建物の外観・内観を遠近法や図法を使って完成予想図作る方法を学ばせる。						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○			2消点法を用いて基本的なパースが描ける	
		○	○			基本的なフリーハンドパースを描ける。	
		○	○			自ら設計した住宅の内観をパースにすることができる。	
		○	○			自ら設計した住宅の外観をパースにすることができる。	
		○	○			色鉛筆で着色し、カラーパースとして完成させる。	
テキスト・教材 参考図書	超かんたん パースの描き方						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	外観2消点図法 基本①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	2	外観2消点図法 基本②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	3	2階建ビル フリーハンドによる作図				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	4	3階建てビル フリーハンド・2消点図法①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	5	3階建てビル フリーハンド・2消点図法②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	6	陸屋根住宅のパース作成 フリーハンド・2消点グリッド図法①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	7	陸屋根住宅のパース作成 フリーハンド・2消点グリッド図法②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	8	切妻住宅のパース作成 フリーハンド・2消点グリッド図法①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	9	切妻住宅のパース作成 フリーハンド・2消点グリッド図法②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	10	2階建アパート フリーハンド・2消点図法				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	11	2階建アパート 2階建コーポ フリーハンド・2消点図法				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	12	2階建コーポ フリーハンド・2消点図法				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	13	自作の設計図面をパースにする①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	14	自作の設計図面をパースにする②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	15	着色				授業最終日に指定する締切日に全作品を提出	
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○	○			20%
	課題作品		○	○			50%
	提出締切		○	○			30%
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	造形学Ⅱ						
科目名(英)	Architectural modelingⅡ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山内 由美
実施年度	2022年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	前期で学修した授業を踏まえて、製図・模型作成スキルの更なる習熟を図る						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				コンセプトに沿った設計を組み立てることができる	
		○				建築図面を正確に読みとくことができる	
		○	○			図面から正確な建築模型制作することができる	
テキスト・教材 参考図書	模型づくりからはじめる建築製図の基礎						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	パーソナルハウスのインテリア設計 課題説明					
	2	パーソナルハウスのインテリア設計 エスキス コンセプト					
	3	パーソナルハウスのインテリア設計 スタディ模型 図面作成					
	4	パーソナルハウスのインテリア設計 模型作成 図面作成					
	5	パーソナルハウスのインテリア設計 模型作成 図面作成					
	6	パーソナルハウスのインテリア設計 模型作成 内観パース					
	7	パーソナルハウスのインテリア設計 模型作成 内観パース					
	8	パーソナルハウスのインテリア設計 仕上げ、手直し				授業内で終わられなかった作業は次回までに完了させておくこと	
	9	設計製図課題 住宅模型作成①					
	10	設計製図課題 住宅模型作成②					
	11	設計製図課題 住宅模型作成③					
	12	設計製図課題 住宅模型作成④					
	13	設計製図課題 住宅模型作成⑤					
	14	設計製図課題 住宅模型作成⑥					
	15	設計製図課題 住宅模型作成⑦					
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○				30%
	課題作品		○	○			60%
	提出状況		○				10%
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	GCB II						
科目名(英)	Global Citizen Basic II						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	各クラス担任
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	GCB I で学んだ「感謝の気持ちと他社への思いやり」を踏まえ、GCB II ではさらに「社会とのつながりの中で自分自身の生きる姿勢＝志」について学ぶことを確認します。「志とは何か」を学ぶ第一歩として、「夢、ビジョン、志の違いについて」および「志を立てるために大切な4つのこと」を学びます。						
授業形式	講義： ○		演習：		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				考えることの大切さを知る	
	○	○				自分の言葉で伝える大切さを知る	
		○				目標の大切さ、志の大切さを知る。	
		○				行動する大切さに気づく。	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックII テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	グローバルシティズンと志 ～志とは何か。どうすれば志を立てることができるのか～					
	2	なぜ志を立てることが大切なのか ～世界の中の日本・日本の中の私①～					
	3	自己を知る ～私の過去・現在・未来～					
	4	伝える力を学ぶ(1) ～「個」としての伝える力を高める(自分の言葉で自分の思いと考えを伝える～					
	5	伝える力を学ぶ(2)「グループコミュニケーション」 ～勇気と思いやりをもって言葉のキャッチボールを～					
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる (言葉の力とプロ意識に学ぶ) ～プロとは～					
	7	自己の大切さと責任を自覚する ～世界の中の日本、日本の中の私②～					
	8	GCB II を受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと					
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				70%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	数学ゼミ I B(選択)									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	吉田 麻美			
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 1年									
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す									
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:		実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				単項式と多項式の基本問題が解ける				
	○	○				文字式を利用した応用問題が解ける				
	○	○				連立方程式の基本問題が解ける				
	○	○				連立方程式の応用問題が解ける				
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	【演習問題】 式の計算 単項式と多項式					解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。			
	2	【演習問題】 文字式の利用 偶数と奇数の和								
	3	【演習問題】 文字式の利用 等式の変形								
	4	【演習問題】 文字式の利用 図形の関係式の変形								
	5	【演習問題】 連立方程式 加減法と代入法を用いた解き方								
	6	【演習問題】 連立方程式 いろいろな連立方程式の解き方								
	7	【演習問題】 連立方程式 連立方程式の利用・身近な問題を解く								
	8	【演習問題】 総合復習 まとめ								
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	受講態度・意欲	○	○				30%			
	課題の提出	○	○				70%			
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする									

科目名	BIM 専攻 I B(選択)						
科目名(英)	Building Information Modeling I B						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	道脇 力
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年						
授業概要	・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。 ・設計課題を通してBIMの特性を理解する。						
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。	
		○				レイアウトを使ってプレゼンテーションボードを作成することができる。	
		○				自身で思い描いた形、空間をARCHUCADを使って表現できる。	
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 22 Magic Vol. 1 及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	プレゼンテーションボード作成「データ提出」				前回の復習を行うこと	
	2	ツールの応用、特殊ツールの紹介、質疑応答				前回の復習を行うこと	
	3	課題2: 作成モデルのリノベーション「コンセプト」				情報、資料収集を行うこと	
	4	課題2: 作成モデルのリノベーション「エスキス①」				情報、資料収集を行うこと	
	5	課題2: 作成モデルのリノベーション「エスキス②」				情報、資料収集を行うこと	
	6	課題2: 作成モデルのリノベーション「モデリング①」				タイムスケジュールの確認を行うこと	
	7	課題2: 作成モデルのリノベーション「モデリング②」				タイムスケジュールの確認を行うこと	
	8	課題2: 作成モデルのリノベーション「プレゼン資料提出」				必要提出資料の確認を行うこと	
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		◎				50%
	課題提出		◎				50%
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。						